

令和4年度朝日町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

(1) 主穀

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約52%で、転換作物に占める小麦の割合が高く、土地利用型作物は担い手へ農地集積が進んでいます。小麦収穫量実績は、平成30年産まで低単収が続いていましたが、スタブルカルチによる深耕体系農機等の充実ならびに耕起と除草剤を活用した「排水・除草対策」の徹底等により、令和元年産以降、三泗管内平均単収を上回る結果となりました。令和4年産以降も引き続き「高単収・高品質」を維持することが課題です。

(2) 農業生産性

少子高齢化などの社会構造変化、食料消費における選択多様化、消費者嗜好の変化などを背景に、米の国内消費量は減少しています。米価安定と振興に向け、需給見通し等を踏まえつつ、需要に応じた米の生産・販売の取組を進める必要があります。こうした状況に加え、後継者不足などにより農業生産性低下が懸念され、今後の土地利用推進と担い手育成・確保が当町の抱える課題となります。また、水田農家を対象としたアンケートでは、約70%の方が将来的には農地を維持できないと想定しています。これらのことから農業が持つ価値を次世代へ継承するため、農地中間管理事業等を活用した担い手への農地集積・集約化等を進め、担い手の高齢化、後継者不足を解消し、持続的に発展する地域の担い手を育成していく必要があります。

(3) 高収益作物

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、主食用米が全国的に在庫過多となっています。余剰分については、水田で主穀以外の「野菜、果樹、花き」など高収益作物の定着を促す必要があります。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

伊勢うどん等の原材料となる小麦「あやひかり」を引き続き作付けし、需要者が求める品質維持をおこないます。また、米余りの情勢において転作拡大は全国的な課題であり、当町においても「小麦・野菜・果樹・花き・花木」のさらなる転作推進に取り組めます。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

朝日町地内ではおおむねブロックローテーションは定着しております。体系としては水稻作→水稻跡作小麦→保全管理→水稻作～の繰り返しとなります。営農計画書や現地確認において数年前から自己保全管理・耕作放棄地となっている水田の点検整理をおこない、畑地化支援を活用した「田→畑地化」に取り組めます。

また、山林に近い埋縄地区においては令和4年産小麦収穫後、埋縄農家組合の取組により「高収益作物畑地化支援と高収益作物定着促進支援」を活用した「栗・梅」の栽培を計画しております。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

化学農薬節減栽培米やブランド米「結びの神」など消費者が求める需要に応じた「安全で安心できる米づくり」の推進をおこない、消費の拡大を図ります。

(2) 小麦

麦作全体としては「水稻跡作小麦のブロックローテーション方式」を継続し、永久転作地では土壌改良による排水対策を強化します。また、雑草対策として複数回耕起をおこない雑草による倒伏を回避して単収向上を図ります。

播種前では引き続き種子消毒による病害防除をおこないます。播種後には除草管理を徹底し、排水対策等による生産性向上と需要者の求める高品質を目標とした栽培を図り、本作化に向けた取組を推進します。

(3) 高収益作物

市場から評価されている朝日町特産品である「シクラメン」、「アジサイ」「生栗」など地域の特色ある農産品については、作付け・生産の維持拡大を検討します。その他、水田活用した「野菜・果樹・花き・花木」など需要のある作物についても、作付け定着を促進し、地域農業の発展を推進します。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	(R3) 前年度作付面積等		(R4) 当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	38.7	0	40.3	0	38.9	0
備蓄米	0	0	0	0	0	0
飼料用米	0	0	0	0	0	0
米粉用米	0	0	0	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0	0	0	0
WCS用稲	0	0	0	0	0	0
加工用米	0	0	0	0	0	0
麦	45.4	0	36.6	0	38.0	0
大豆	0	0	0	0	0	0
飼料作物	0	0	0	0	0	0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば	0	0	0	0	0	0
なたね	0	0	0	0	0	0
地力増進作物	0	0	0	0	0	0
高収益作物	0.45	0	0.39	0	3.44	0
・野菜	0.06	0	0	0	0.05	0
・花き・花木	0.39	0	0.39	0	0.39	0
・果樹	0	0	0	0	3.0	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
・〇〇	0	0	0	0	0	0
畑地化	0	0	0	0	3.0	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦	単収向上	取組面積	（３年度） 45.4ha	（５年度） 38.0ha
1	麦	単収向上	単収	（３年度） 330kg/10a	（５年度） 360kg/10a
2	別表で指定した高収益作物	高収益作物助成	取組面積	（３年度） 0.45ha	（５年度） 3.44ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は３年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:三重県

協議会:朝日町地域農業再生協議会

新様式(公表用)

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	単収向上(地域設定)	1	2,950	小麦	ブロックローテーションに取り組む担い手
2	高収益作物助成(地域設定)	1	19,925	シクラメン	対象作物を出荷販売する農業者

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。